

ふるさと「阿南市」のすばらしい魅力を再発見!



福井町自主防災連絡会(福井町)



山、川、海と自然環境に恵まれている福井町。反面、自然災害の多い地域で、昨年の台風12号による多大な被害も、記憶に新しい。今世紀前半にも発生する恐れがある南海トラフ巨大地震は、マグニチュード8クラスとなることが予想されていて、海に面した福井町にも強い揺れや巨大な津波が襲来する可能性がある。「生まれ育ち、暮らしているふるさと町の生命、財産を自分たちの手で守りたい」。そう話すのは、この町で自主防災活動を行っている「福井町自主防災連絡会」の大開 寛会長(53歳)だ。会は平成20年に町内18地区にある自主防災会の連合組織として設立され、自主防災活動の取りまとめと、行政とのパイプ役を担う。

多彩な活動を会は繰り返し広げている。毎年、全町をあげての防災訓練を実施。地元消防団や婦人会、小中学校などの協力を得て避難訓練や炊き出し訓練などに取り組むことで、団体や世代を超えた地域の連帯感を生み出すことにも一役買っている。また、災害時の通信手段としてト



ランシーバーに着目。周波数を合わせておけば、状況を同時に伝達、把握、共有できることから町内全域に配備し、毎月通信訓練を行っている。

「過去の災害の経験は、これから災害に備える者にとって、有益な教訓を与えてくれます」と大開さんは話す。津波体験を語り継ぐ活動も行っており、町内の昭和南海地震による津波体験者に、地元小学生の前で津波体験を語ってもらっている。体験者は、地元の子や孫の行く末を案じ、自分たちの経験が活かさればと真剣な眼差しで語りかける。児童も生々しい体験談を聞き、教訓として心に深く刻み込まれていく。

また、継続的な防災啓発として、広報誌「絆ー福井町自主防災会だよりー」を発行し、町内全戸に配布。防災訓練の告知や活動報告などを掲載することで地域の防災情報の互版の役割を果たしている。常日頃から人と人とのつながり「絆」を強めながら災害に備えている福井町自主防災連絡会。いざというときには、第2の「釜石の奇跡」を実現してくれるにちがいない。